

PWCユーザーのためのアンカリング 「どのアンカーが効くの?」

質問にお答えするため 4種類のアンカーを比較 してみました。

底質は柔らかい砂地、水深90cm、ロープ3m(水深の3倍)でアンカーが動き出すまでの把駐力をバネ秤で計測。

PEコートアンカー 4.5k 1 2

把駐力:約20kg

今回のテストで最も高い把駐力を発揮したのがこのタイプ!
ロープを引っ張ると爪が徐々に砂に食い込みはじめてぐっと留まります。
最大把駐力を発揮するまでの移動距離は約40m。最も一般的なダンホース型アンカーをPWCニーズにあわせてコンパクトにしたアンカーです。



フォールディングアンカー 4.0k 5 6

把駐力:約13kg

まるで傘のように開いたり閉じたりできるのがこのアンカーの特徴です。
水中では2本のツメが砂に食い込み、残りのツメが上向きに伸びます。
機能性を十分に発揮するために、投錨まえは傘をしっかりとひらいてロックを忘れずに!



PVCマッシュルームアンカー 5.0kg 3 4

把駐力:約7kg

おもに重量だけで効かせるのがこのタイプ。
ロープに引っ張られると横向きに倒れるので傘の部分が砂に食い込んで効きがアップすることがあります。
底質が柔らかい砂などではこのプラスαの把駐力が期待できるかも・・・
重量だけの単純比較での把駐力は劣りますが、コンパクトなそのかたちはやっぱり魅力的です。



サンドバッグアンカー

把駐力:約13kg

ほかのアンカーのような底質への食い込みはゼロですが、広い面積が海底に接触するため「重量」+「摩擦力」で把駐力を発揮します。なんといっても使用前の運搬の手軽さを考えるとかなりの優れものです。
直径28cmバッグに8割程度まで砂を入れて容量は約20リットルで計測しました。
砂を詰めるには男子が素手で約2分なのでスコップなど道具があればさらに便利かも。



アンカリングした後も
見張りを怠らずに!

食い込みタイプのアンカーは海底に落としてすぐに効くものではありません。
アンカーを打ったらまずは船体がどの方向に押されていくのか、しっかりとアンカーが効いているかを確認すること。
アンカーがしっかりと効いて他船にぶつからないことが確認できるまでPWCから離れないように。
さらにアンカリング中は風や波の変化に気を配り、長時間目を離さないこと。
潮の干満がある場合は満ち引きに合わせてアンカーを打ちなおすことも必要です。



アンカーロープは伸縮式がトレンド!?

伸縮性のロープ(レスキューアンカーロープ)は長さが決まっているので使用できる水深が限定されます。とは言ってもPWCをアンカリングするには十分で、波や風で瞬間的に船体が押されてもロープ自体が伸縮するのでアンカーは安定して流されにくいようです。

注文品番 0715-(カラー) 各¥3,850 (税抜 ¥3,500)



一般的なロープ(9 最上級16打ヨットロープ、10 アンカーロープ)は長さが自由に選べて係船や曳航、何かを縛る際にも使用できて汎用性が高いです。

9 10



アンカリングの目印になるフロートマーカーも人気です。

伸縮ロープとあわせて使用するお客様急増中!



注文品番 0715-(デザイン) 各¥1,320 (税抜 ¥1,200)



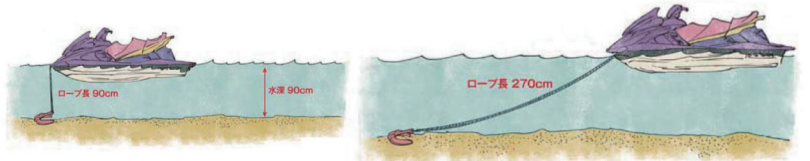
おっきなサイズのメガアヒルちゃんも売れています!
注文品番 0715-90 各¥2,200 (税抜 ¥2,000)

総括すると

アンカリングにおいてアンカーの重量そのものも迷いますが、意外と大事なのがロープの長さです。ロープが水深程度の短いものだとどのタイプも軽々と持ち上がりしまい全くその機能を発揮できません。アンカーを効かせるには「海底と平行にロープを引くこと」が重要です。ロープは余裕のある長さにしてアンカーの爪部分をしっかりと食い込ませる!これしかありません。

アンカーロープの長さは水深の3倍以上がひとつの目安です。
ロープが短すぎると船体の揺れが直にアンカーに伝わってしまいます。
くいこみタイプのアンカーを効かせるためにはロープを海底と平行に引く必要があるため水深以上のロープの長さが必要となります。
風や波が強い場合、穏やかな水面に移動するか、それが無理ならさらにロープを長くすることが必要です。
しかし長いアンカーロープは他船の邪魔になったり、ロープを吸い込んだり、風向きが変わり他船とぶつかったりなど注意が必要なのでお気をつけ下さい。

ロープの長さは水深の3倍以上!



おことわり

アンカーのよし悪しは、PWCの揺れや底質・波の強さや潮流など多数の条件が絡み合って決まります。表示した把駐力などはあくまで参考値としてお考え下さい。